

会議結果報告書

令和6年4月16日

会議の名称	志木市文化財保護審議会
開催日時	令和6年3月26日(火) 午後3時～5時
開催場所	志木市役所 中会議室2-1
出席委員	井上國夫委員、深瀬克委員、上野守嘉委員、新田泰男委員 大木雄平委員 (計 5人)
欠席委員	なし (計 0人)
説明員職氏名	生涯学習課 土崎課長、徳留主査、石川主任 (計 3人)
議題	(1) 「志木市立郷土資料館及び志木市立埋蔵文化財保管センターの再整備に係る基本方針」の策定について (2) 「志木の田子山富士塚」保存活用計画の策定について
結果	(1) について、慎重に計画を進めるよう意見が出た。 (2) について、今後も田子山富士が維持されるよう、調査及び計画策定が進むことを期待する意見が出た。 (傍聴者 0人)
事務局職員	生涯学習課 土崎課長、徳留主査、石川主任

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（１）「志木市立郷土資料館及び志木市立埋蔵文化財保管センターの再整備に係る基本方針」の策定について 資料 1

〈説明員〉

志木市公共施設マネジメント戦略に基づき、「志木市立郷土資料館及び志木市立埋蔵文化財保管センターの再整備における基本方針（案）」について、2月19日まで意見公募を行った結果、1件の意見があった。この結果を踏まえ3月の教育委員会において、「志木市立郷土資料館及び志木市立埋蔵文化財保管センターの再整備に係る基本方針」として策定されたことから、文化財保護審議会に報告するもの。

〈質疑応答等〉

委員）調査・研究環境の整備や、市民との連携、ホールの確保などをしていくと書かれているが、具体的に実施することが本当に可能なのか。この後計画を深めていく際には、短期計画などで年度ごとでも具体的な計画を作成した方がよい。

事務局）今後の設計を進める中で、検討する。

委員）今後も増えていく資料に対応するためにも、限られた敷地しかないわけだから、有効に使ってもらいたい。

事務局）設計を進める中で、検討する。

委員）展示スペースは変わらないとの回答であったが、2つの施設が一緒になり、扱う内容が増えるのに展示スペースは変わらないのか。

事務局）そうすると若干今より広くなる。収蔵庫棟は、1階辺りの階高を上げて、容量を増やす計画である。既存の郷土資料館床面積の1割減が複合化目標値である。

委員）予定地は小学校も近いし、ふれあいホールを小学生も利用できれば良い。近年、学校でも出前講座や施設見学を行っているが、それを契機に初めて埋蔵文化財保管センターに行った児童も多く、子どもの学びの場として学校へのアピールもしてほしい。

委員）郷土資料館と埋蔵文化財保管センターの複合化と言うが、改修の際に八角形部分と展示室の動線・受付位置をちゃんと検討してほしい。

事務局）設計を進める中で、検討していく。

委員）増築は2階建てだが、荷物の上下はどうするのか。

事務局）荷物用の昇降機があったほうが良いと考えている。

会長）希望していた独立した博物館ではないのが残念であるが、念願の計画である。今後慎重に計画を進めていってほしい。

(2) 「志木の田子山富士塚」保存活用計画の策定について

資料2

〈説明員〉

「志木の田子山富士塚」について、人為的・自然的要因により顕在化した課題に対し、「志木の田子山富士塚」保存活用計画策定委員会を発足し、令和6・7年の2カ年で調査を含めた保存活用計画の策定を目指そうとするものである。現段階の検討状況について、報告するものである。

〈質疑応答等〉

委員) 地盤調査はどんな目的で行うのか。

事務局) 現在の富士塚の状態を把握するために行う。修理・補修工事を実施するためにも、山体内部の現状を知る必要がある。

委員) いつ頃実施するのか。入山対応があるので決まったら早く知りたい。

事務局) 秋頃になるだろうと考えている。その期間は入山できないことになるので、広報等で市民にも知らせていく。

会長) 今後も田子山富士が維持されるよう、調査及び計画策定が進むことを期待している。

4 報告事項

・令和5年度寄附資料報告

・『志木市の文化財第二十二集 調査報告書 田子山富士』の記載内容の変更について

5 閉会